

平成31年度 狭山市立入間野小学校経営方針

狭山市立入間野小学校長
栗飯原 かをり

1 目指す学校像

児童が安心して自己表現し、自己実現できる学校

～心豊かで たくましい子の育成～

【〇学ぶ喜びあふれる学校 〇安心・安全な学校 〇地域に開かれた学校】←(目指す学校像)

- (1) 一人一人の児童に確かな居場所を与え、それぞれの良さを発揮させ、自己実現せることのできる学校。
 - (2) 補充学習を確実に行き、知識・技能を確実に習得できる学校。
 - (3) 問題解決的な学習過程を展開し、互いの考えを出し合いながら、活用する力を身に付けることができる学校。
 - (4) よりよい人間関係を築き、支え合い、励まし合うことができる学校。
 - (5) きまりを大切にし、集団の規律を守ることができる学校。
- 教育に関する3つの達成目標「規律ある態度」90%達成項目数 各学年8/12に
- (6) 目標を持たせ、やりぬく喜びを持たせることができる学校。
 - (7) 保護者や地域に信頼され、理解と協力を得ることができる学校
 - (8) いざという時には、児童・教師・保護者が確認した行動をとることができる学校

2 目指す児童像

知・徳・体の調和のとれた児童の育成

【学校教育目標 仲よく 考え やりぬく子】←(学年・学級教育目標)

(1) 仲よくする子

- ・自分から、目を見て、相手に届く声で挨拶ができる子。(コミュニケーションの第一歩)
- ・「オアシスご」の言える子(おはよう、ありがとう、失礼します、すみません、ごめんなさい)
(コミュニケーションの基本)
- ・所属する集団のために、何をしたらよいのか考え、実践できる子。(相手を理解する力)
- ・善悪の判断ができ、正しいと思ったことを行い、注意を促したり呼びかけたりすることができる子。(道徳的 判断力・実践力)

(2) 考える子

- ・与えられた課題にじっくりと向き合える子。
- ・自ら課題を見つけ出すことのできる子。(発達段階に応じて)
- ・聞く相手を意識して、教室に聞こえる声で、意見を言うことができる子。
- ・相手の考えを分かるうとして、問い返したり、質問したりすることができる子。
- ・ノートや提出物の文字を丁寧に正確に書いたり書き抜いたりすることができる子。
- ・家庭学習の手引きを100%利用し、毎日、家庭学習に取り組むことができる子。

(3) やりぬく子

- ・目標を持ち、あきらめずに、時間いっぱい最後まで取り組める子。(見直しも時間いっぱい。)
- ・目標の達成度を自己評価し、達成感や次への意欲を持つことができる子。
- ・進んで運動に取り組むことができる子。(自分の精一杯の体験をさせる。)
- ・危機対応能力を身に付けることができる子。

3 目指す教師像

〇情熱をもち子供を愛する教師

〇率先垂範のできる教師

○自ら学び指導力の向上に努める教師

○人と人とのつながりを大切にする教師

- (1) 子供を大切にし、丁寧に接する教職員（教育愛）
- (2) 学び、伸びようとする教職員（研修の意欲）
- (3) 児童の所属集団を高めていく教職員（学級経営の基盤）
- (4) 児童の学習意欲を高める教職員（授業力）
- (5) 児童の声をしっかりと聴く教職員（教育相談力）
- (6) いざという時に、確認した行動をとる教職員（危機対応能力）
- (7) 学校運営の一翼を担う教職員（校務分掌）
- (8) 気持ちよく職務が遂行できるよう、よりよい人間関係を築いていく教職員
(風通しのよい職場づくりへの寄与)
- (9) 元気で明るい教職員（健康管理）
- (10) サービスの厳正に努める教職員（倫理確立）

4 経営方針

教職員一丸となって、児童一人一人と集団をよりよく変容させ、学校への信頼を得る

- (1) 学年・学級教育目標（目指す児童の個の姿）と目指す学級像を学校教育目標や目指す学校像と連鎖して設定する。
- (2) 補充学習を徹底し、児童に基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。
- (3) 問題解決的な学習過程を展開し、学び合いを通して、分かる喜びを味わわせる。
- (4) 校長講話に始まり、一貫した生徒指導を、共通理解と共通行動の下に行い、児童に寄り添う教育相談を実施する。
- (5) 報告・連絡・相談を密にし、互いに支え助け合う、風通しのよい職場をつくる。
- (6) 危機対応マニュアルに基づく避難訓練を実施し、確認した行動がとれるようにするとともに、自分の身を自分で守ることのできる力を育成する。
- (7) 常に教育公務員としての自覚を持ち、最善を尽くす。
- (8) 充実した教育活動となるよう、保護者や地域の理解と協力を得ると同時に、保護者や地域にも積極的に協力し、連携を深める。
- (9) 地域と連携した教育活動に取り組み、地域に生きる児童の素地を養う。
- (10) 異校種間のスムーズな接続を図るため、幼児と児童、生徒同士の他、教職員相互の交流を図り、相互に理解を深め、教育活動に活かす。
- (11) 学校評価システムを活かし、学校運営改善に努める。

【本校のPDCAサイクル】

※学年の実態に応じ、学校経営方針から学年主任は学年経営案を立案し、学級の実態に応じ、各学級担任は学級経営案を立案する。その際、知・徳・体の指導方針を立案し、学級における道徳と学級活動の指導計画を基盤とする学級経営案を作成する。

学年主任、学級担任は、各学期末に成果と課題をまとめ、校長に報告する。

※目指す学校像の構築に向け、校長・教頭の示す今年度の目標を受け、学年・学級の目標と分掌の目標を設定し、「自己評価シート」に、記述する。その際、学級経営案との整合性を保つ。目標は、定量目標か定性目標とし、年度当初面談を通して確定する。目標の修正が生じた場合は中間申告時に行い、1月中旬までに、達成状況を申告する。

※学校経営方針は、年度当初、学校だよりにて広報する。学校評価は、学期末に行い、児童や保護者にもアンケートを実施する。1学期の結果を検討し、2学期の学校運営改善策を立案し、学校関係者評価委員会で検討後、学校だよりにて保護者や地域住民に周知し、全教職員で取り組む。年度末の学校評価結果から次年度の学校運営改善策を立案し、学校関係者評価委員会で検討後、学校だよりにて保護者や地域住民に広報する。また、

この結果を校長は、教育委員会に報告する。

5 本年度の重点

I 学校課題研究

「特別の教科 道徳」考え、議論する道徳の実践と評価の充実

道徳教育の目標・・・学習指導要領 第1章総則の第1の2の(2)

〈よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。〉に基づき、児童の道徳性を養うための授業実践を行うとともに、評価について学び、人間野小道徳科のスタンダードを作成する。

II 知識・技能を確実に習得させ、活用する力(思考力・判断力・表現力)を育成する。

☆教育に関する3つの達成目標効果の検証 98%以上に

★県学力・学習状況調査正答率 70%に

*全国学力・学習状況調査正答率 70%に

- (1) 確実な補充学習(テスト返却後、×を○にして返却する。)
- (2) 「言語活動を位置づけた単元計画」に沿い、研究成果を継続しながら指導する国語科の授業
- (3) 学習のめあてを明確にし、児童の言葉で学習のまとめを行う問題解決的学習過程
- (4) 丁寧に正確に、文字を書いたり、文章を書き抜いたりさせるノート指導
(下敷きや消しゴムを使用させ、正しい鉛筆の持ち方で、筆圧を入れて書かせる。)
- (5) 習熟の程度に応じた算数科の少人数指導(4,5,6学年)とTTによる指導(3年)
- (6) 意見を教室に聞こえる声で発表したり、分からない意見をそのままにせず、問い返したり質問したりして、大切にしようとする、話し合い活動
- (7) ICTを効果的に活用した授業(デジタル教科書、書画カメラ、大型テレビの利用)
- (8) 呼名に際し、「はい、○○です。」の返事の仕方の徹底と、授業中の正しい姿勢「グー・ペタ・ピン・サツ」の指導
- (9) 見直しの仕方を身に付け、時間いっぱいテストに取り組む態度の育成(テスト開始時間と終了時間を黒板に明記)
- (10) 家庭学習の手引きの利用指導、宿題と家庭学習の見届け(10分×学年+10分)

III 運動の日常化に取り組み、進んで運動する児童を育てる体育科の授業を実践する。

☆新体力テスト県平均以上項目数 62/96(65%)に・・・70%を目指す。

(H.27 27% H.28 46% H29 52% H30 65%)

IV よりよい人間関係を築き、協力し合いながら自主的に活動する児童を育成する。

- (1) 様々な交流活動を通して、体験的に学ぶ学習活動の充実
- (2) いじめや差別がなく、明るく温かで、注意も促し合うことができる学級集団づくり
- (3) 協力し合いながら自主的に活動する異年齢集団活動、児童会活動やクラブ活動
- (4) 基礎基本の指導の上に、まとめる・決めるを意識した比べ合いを指導する学級活動
- (5) 心を育てる道徳教育と心に響く生徒指導(講話朝会の学級での指導と学校のきまりに基づく一貫した指導)、組織的な相談活動(保護者面談、就学支援会議、ケース会議)
- (6) 全教育活動を通じた人権教育と平和教育の取組

V 学校応援団やSSVCの支援活動を積極的に取り入れ、充実した教育活動を行う。

- (1) 年間計画に基づき、学年主任は、学校応援団コーディネーターやSSVCコーディネーターに連絡
- (2) 児童の気持ちを表した交流給食

VI 安心・安全な学校づくりを推進する。

- (1) 危機対応能力を高める交通安全指導教室、火災や地震対応避難訓練、不審者対応訓練、安全な遊具での遊び方の指導
- (2) 緊急メールシステムの効果的な利用
- (3) 異常への気づきを大切に、安全点検に基づく確実な対応と修繕の見届け

VII 職員室の美化に努め、言葉づかいも含めて美しい教育環境を整え、発展させる。

- (1) 計画的な保存文書の廃棄処理
- (2) 職員室の共有スペースや机上の整理整頓
- (3) 正しく美しい言語環境をつくる教職員の言葉づかいと校内放送への指導
- (4) 「時間いっぱい もくもく びかびか」を合言葉とする清掃指導
- (5) 情操を養う掲示物と貼り方の工夫

VIII 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進

- (1) 魅力ある学校だより、学年だよりの発行と時季を得たホームページの更新
- (2) スムーズな接続を図る近隣保育所(園)や幼稚園、中学校、工業高校との連携
- (3) 地域の教育財産と連携した教育活動への取組

IX 教職員の人財育成

- (1) 企画会から学年会による全教職員の学校運営参画
- (2) 全教職員の協力による若手教員の育成
- (3) 報告、連絡、相談による情報の共有化と組織的な対応(担任→学年主任→分掌主任→管理職)

【追記：令和元年を迎えるにあたり】

新元号「令和」を生きる子供たちの育成に向けて、令和にこめられた意味をご紹介します。

「令和」の典拠は、「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首并せて序

初春令月 氣淑風和
梅抜鏡前之粉 蘭薰珮後之香

時に、初春の令月にして、氣淑く風和らぎ、
梅は鏡前の粉を批き、蘭は珮後の香を薫らす

時あたかも新春の好き月、空気は美しく、風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている。

厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることのできる、そうした日本でありたいとの願いが込められていると安倍首相の談話にありました。